■ 2023.1.25　No253

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E-mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

東電３経営陣 二審判決
市民・国民の思いとは大きな隔たりの判決！

１月 18 日、東電福島第一原発過酷事故をめぐり業務上過失致死傷罪で強制起訴されていた勝又恒久元会長始め３被告に対する東京高裁判決は一審を支持「不合理な点はない」と無罪を言い渡した。

「長期評価」をけなすことに集中した裁判！

傍聴席 53 席に（資料１）のような長蛇の列をなし、高い関心を示す裁判だった。下はその経過である。

しかし、判決は「津波の襲来を予測することは出来ず、事故を回避するために、困難がある原発の運転を停止するほどの義務があったとは言えない」と「長期評価」の信頼性をけなす事だけに集中した判決内容だった。

しかし、考えて欲しい！「長期評価」は 1995 年の阪神淡路大震災（死者 6,434 名、行方不明者 3 名、負傷者 43,792 名）(注２) という戦後最悪の被害をもたらした教訓から得たもので、それを否定するなど裁判長としてあるまじき行為と言わねばならない。

何よりも国民・市民感覚とは相容れないものだった。

（資料１）　長蛇の列をなした傍聴者

東京電力第一原発過酷事故をめぐる主な経過　(注 1)

- ・2002 年７月　・国の「地震調査研究推進本部」が「長期評価」を公表し「三陸沖北部から房総寄りを一つの領域としてプレート間、大地震（津波地震）について明治三陸地震と同様、M 8.2 前後の地震がどこでも発生する可能性がある」と発表した。
- ・2008 年２月　・東京電力の御前会議（幹部全員・勝又会長出席）で「長期評価」に基づき津波対策（防潮堤・水密化等）を実施する方針を了承する。
- ・2008 年３月　・東電子会社が長期評価を踏まえた「最大 15.7 ㍍」の津波予測を東電に報告する。
- ・2008 年７月　・東電、武藤栄副社長が「いったん決めたはずの津波対策をやらない」として決定を取り消す。
- ・2008 年 10 月　・東電耐震バックチェツク（現・規制委員会が定めた耐震性を評価）を 2016 年まで延期させることを決定する。
- ・2011 年３月　・東日本大震災発生　原発過酷事故が起こる。

小・中学校通学路の塀を解体した住民！

（資料２）　３㍍余りの塀を低くした市民の感覚は…

ここは、いわき市駅近傍にある狭い坂道で「指定避難場所・平第一小学校」の表示があるように小・中・高学校の通学路である。その高級住宅に高さ３㍍余りの大谷石の石材で造った塀が建っていた。

それが近年、赤線の下から解体されている。「良かったな！」と思いながら、その真意を裁判のある前日に伺ってみた。

家主の女性が出て来て「**子ども達に、もしものことがあったら大変だと思い…低くした**」と言うのだ！！

これが市民感覚なのだ！

私も 10 数年前、富岡町の直径１㍍余りの巨木を近くの住宅に倒れたら…と思い伐採している。東電３被告と裁判官は、その感覚を忘れ危険極まりない原発を動かすことだけ考えていたことになるのだ！

（資料２）を見て欲しい！

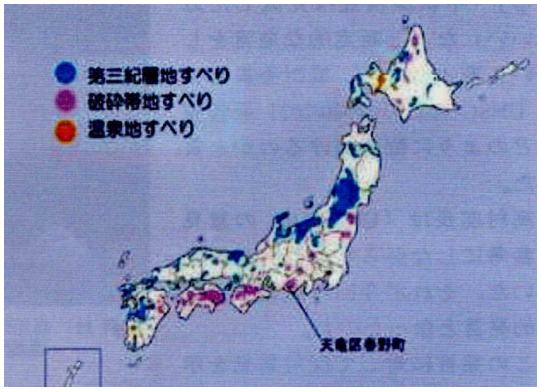
第一原発には…
地すべりの跡があり 他にもあるのでは？ その2

前号では規制庁のリスクマップで「第一原発で地すべりの可能性の検討に入った」ことを述べた。そして、改めて（資料３）の「第三紀層すべり・破砕帯・温泉地すべり」を見てみたい。

日本列島は地殻変動によって大陸から分離

●の印のある「第三紀層すべり」と言うのは（資料４）のように、今から約 6,500 万年から約 1,500 万年前に日本列島が地殻変動によって大陸から離れ、その過程で日本海側のかなりの部分が海の底だった時代のことである。

この頃、火山灰や砂や泥などが海底に積もってできた地層を第三紀層と言う。この地層はもろくて粘土化しやすい性質がある。



（資料３）　第三紀地すべり等３つの地層

そのため海の底にあった地層はもろく粘土質で滑りやすい地層である。この代表的な地層が新潟県山古志村（現・長岡市）　更には、長野県に多く点在している事を述べてきた。

（資料４）　地殻変動で日本列島が大陸から分離する様子

特に（資料５）のように、今から 38 年前、1985 年７月、長野市地附山が地すべりによって介護施設で多くの人が死亡している。

（資料５）　1985 年７月長野市地附山地すべり跡

こうして改めて見てみると北陸から新潟、山形、秋田県南部に「第三紀層すべりが多いことが分かる。現に山形県鶴岡市で昨年大晦日の未明に地すべりが発生し、２万立方㍍が崩落し２名の方が亡くなっている。

山形県鶴岡市で地すべりが発生２名死亡

地形学の識者[注３]は「12 月、降雪があり、その後雨が降って雪が解け、水が地下にしみこんで水圧が上がり、斜面が崩れたと考えられる」と話している。

次に●の印のある「破砕帯地すべり」とは断層運動によって地層、岩石が粉々に砕けた部分が一定の幅を持ち一定の方向に延びている場合、その部分を**破砕帯**という。

この岩石は強度が低いため地すべりの原因となる。これを「**破砕帯地すべり**」と規定している。

特に、茨城県から福島県に延びる「**棚倉破砕帯**」（たなぐらはさいたい）と固有名詞を付して使われる代表例である。その上に第一原発を造ったと言うことである。

（資料６）にあるように今から 10 年前の 2013 年８月 20 日に軟弱地盤の下落により、第一原発のタンク（フランジ型）から約 300 ㌧もの高濃度汚染水が漏れる事故が発生していた。この事故は「**国際原子力事象評価尺度**」（INNES）が定める８段階評価のうち、上から５番目の「レベル３」（重大な異常

事象）に相当すると原子力規制委員会が発表している。ちなみに 3.11 過酷事故はレベル７であったから、この事故の重大さが分かるはずである。

ここで注目しなければならないのは（資料７）の問題である。

「Ｈ４エリア」で汚染水漏れを起こしたタンクは、以前は「Ｈ １東エリア」に設置されていた。このエリアは軟弱な地盤がありタンクが傾いた状態にあった。

それが（資料８）の問題である。

ピンクで示した３つのタンクを解体して「Ｈ４エリア」に移設した。それが 2013 年の重大事故を発生してしまったのだ。

「No ４タンク」の下に「軟らかい粘土・腐植土壌の分布範囲」が３㍍程度下落している。この軟らかい土壌が第一原発の敷地全体に広がっていると見なければならない！ 2021 年２月 13 日には福島県沖でM 7.3 最大震度６強が発生している。

更に、昨年５月 22 日には茨城県沖でM 6.0、最大震度５弱が発生している。

この時も（資料９）のように汚染水を貯蔵しているタンク 1,136 基の内 160 基にズレを確認したことを東電は発表している。

また放射性廃棄物を保管しているコンテナ８基が転倒している。この時も、軟弱な地盤が様々な現象をもたらしたと思われる。

福島民友
THE FUKUSHIMA MINYU
2013年（平成25年）8月21日（水曜日）

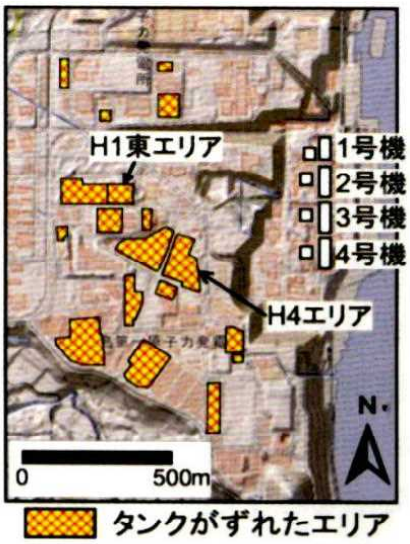
第１原発地上タンク

汚染水漏れ300トン

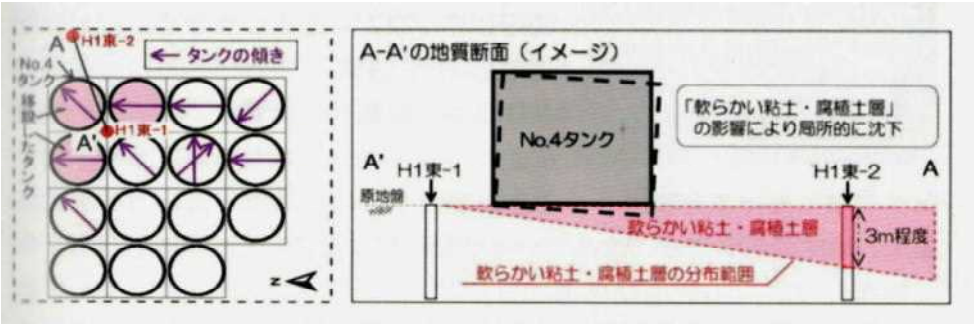
過去最多量 高濃度、8000万ベクレル

東電、海流出否定できない

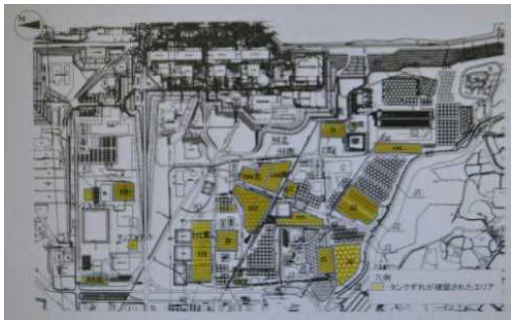
（資料６）10 年前のニュース



（資料７）　この他にもある！



（資料８）　左のピンク色が移設したタンクと３㍍の沈み込みがある



（資料９）　黄色がズレたタンク 160 基

と思われる。

このままで行くとタンク転倒にとどまらず、地震によってペデスタルの転倒…建屋倒壊など深刻な事態になりかねないと思っている。

そして私どもに多くのデータを与えている「福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ」が「コラム７・東電に求める情報公開」の中で「なかなかデータを出さない東電体質」として次のように指摘している。

「2013 年問題が頻発し、深刻な事態になっている。それにもかかわらず東電は地質や地下水の資料・データをすぐに公表していない。また原発事故当時、東電社長の指示により「炉心溶融」を隠ぺいした事実が 2016 年に明らかになり、社会から強い批判が出た。

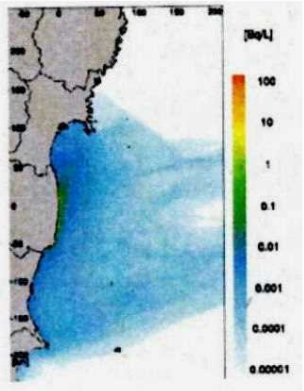
このとき、東電は『反省と誓い』や『福島県民の皆様へ』など謝罪を発表した。しかし、その後も ALPS 処理水のデータやグラフで多数の誤った数値を公表した。

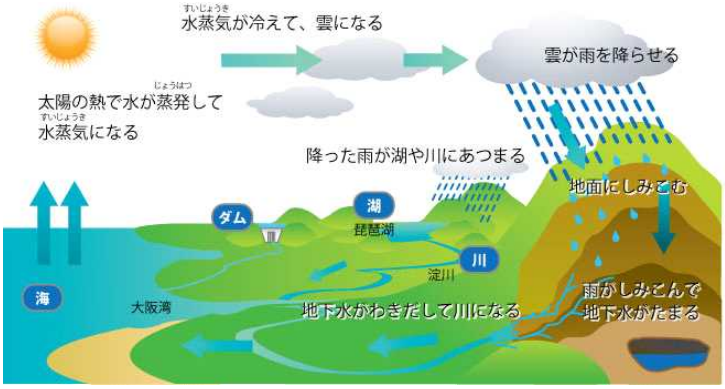
データ訂正と謝罪は何度もあり、もはや東電の体質に起因する問題と言わざるを得ない」と語っている。この間、「第一原発の地すべり問題」を調査して思うのは「日本には危険極まりない原発を造る場所など何処にもない！」のが現実である。そして東電と言う企業はは 50 年間、隠ぺい、デタラメの連続であった。

汚染水は海と陸地をも汚染する！　斉藤章一

政府は東電第一原発の汚染水の海洋放出を今年の春から 6 月までの間に開始すると報道発表している。関係者・県民の理解が得られないままの強行は許されない

右の図（**資料 10**）は汚染水が海洋放出された場合の拡散シミュレーションである。宮城県沖から千葉県まで広範に拡散する様子がわかる。





（**資料 10**）　　**海に広がったトリチウムは蒸発し陸地に降り注ぐ**

トリチウムは化学的には水と同じ振る舞いをするので、当然海から蒸発し風にのって陸地の方にも向かう。そして山脈にぶつかると冷えて雨を降らせる事になる。つまり、蒸発したトリチウムは海から山に向かい、大地を流れて再び海にもどる事になる。

この結果はトリチウムが海に留まらず環境全体を汚染してしまうというである。

政府はマスコミを通して自然の中にもトリチウムが存在し雨にも川の水にも 0.5 ～ 1.0 ベクレル／ℓの濃度で存在すると宣伝しているが、宇宙線などで発生するトリチウムは測定出来ないほどの量で、現在出ているものは原発や再処理工場、核軍事施設から発生したものが原因と考えられている。（以前は原爆実験によるものがほとんどであった）

135	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/9	広野町	H-3	検出されず		Bq/L
136	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/9	双葉郡双葉町	H-3	0.53		Bq/L
137	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/9	双葉郡富岡町	H-3	0.66		Bq/L
138	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/9	双葉郡大熊町	H-3	0.81		Bq/L
139	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/9	双葉郡楢葉町	H-3	0.58		Bq/L
140	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/9	双葉郡浪江町	H-3	0.68		Bq/L
141	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/20	会津若松市	H-3	0.53		Bq/L
142	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/4/20	福島市	H-3	0.53		Bq/L
143	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	双葉郡双葉町	H-3	0.49		Bq/L
144	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	双葉郡楢葉町	H-3	検出されず		Bq/L
145	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	双葉郡大熊町	H-3	0.51		Bq/L
146	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	広野町	H-3	0.5		Bq/L
147	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	双葉郡富岡町	H-3	0.39		Bq/L
148	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	双葉郡浪江町	H-3	0.48		Bq/L
149	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/7/3	南相馬市	H-3	検出されず		Bq/L
150	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/10/2	広野町	H-3	0.48		Bq/L
151	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/10/2	双葉郡双葉町	H-3	0.47		Bq/L
152	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/10/2	双葉郡大熊町	H-3	0.44		Bq/L
153	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/10/2	双葉郡富岡町	H-3	0.53		Bq/L
154	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/10/2	双葉郡楢葉町	H-3	0.61		Bq/L
155	07 福島県	陸水	蛇口水	2009/10/2	双葉郡浪江町	H-3	0.54		Bq/L
156	07 福島県	陸水	蛇口水	2010/1/8	双葉郡浪江町	H-3	0.54		Bq/L
157	07 福島県	陸水	蛇口水	2010/1/8	双葉郡楢葉町	H-3	0.8		Bq/L
158	07 福島県	陸水	蛇口水	2010/1/8	双葉郡富岡町	H-3	0.93		Bq/L
159	07 福島県	陸水	蛇口水	2010/1/8	双葉郡大熊町	H-3	0.98		Bq/L
160	07 福島県	陸水	蛇口水	2010/1/8	双葉郡双葉町	H-3	0.82		Bq/L
161	07 福島県	陸水	蛇口水	2010/1/8	広野町	H-3	0.66		Bq/L

福島県	双葉郡広野町	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/07	H-3	検出されず		Bq/L
福島県	双葉郡楢葉町	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/07	H-3	検出されず		Bq/L
福島県	双葉郡富岡町	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/07	H-3	検出されず		Bq/L
福島県	双葉郡川内村	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/04	H-3	検出されず		Bq/L
福島県	双葉郡大熊町	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/06	H-3	検出されず		Bq/L
福島県	双葉郡双葉町	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/06	H-3	検出されず		Bq/L
福島県	双葉郡浪江町	陸水	蛇口水	上水(蛇口水)	2021/01/06	H-3	検出されず		Bq/L

（**資料 11**）　　**原発が止まるとトリチウムも消える**

（**資料 11**）ところが、「原子力施設周辺環境モニタリング調査」のデータから「陸水中のトリチウム（H-3）」を見てみると原発の運転によって陸水が汚染されているのではないかという疑われるデータが出てきた。文字が小さくて見づらいが、左の表は事故前の 2009 年のデータで原発周辺の浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町などのデータである。4 月、7 月、10 月、翌年 1 月の値は 0.5 ～ 0.9 の間で検出されている。しかし、事故 10 年後の 2021 年（下の図）になると検出されなくなっているのだ。事故後は曲がりなりにも汚染水の海洋への流出を止める手立てが講じられ、ゼロではないにしろ少量に抑えらた結果、検出出来ないレベルまで下がったと考えるのが妥当ではないだろうか。他の原発周辺でも事故後原発の運転が止められたことでトリチウム濃度が下がっているのである。生命に欠かせない大切な水を、危険なトリチウムで汚染する原発はすべて廃炉にすべきである。

再開後 第70回 東電交渉
「ペデスタルの支持機能」問題で論争！

1 月 20 日、いわき市で再開後第 70 回目の東電交渉が行われた。内容は以下の通りであった。

ペデスタルの支持機能していない！

（諸団体）～**1. 1 号炉圧力容器を支えるペデスタルの損傷に関する早期の調査と緊急安全対策を求める。**

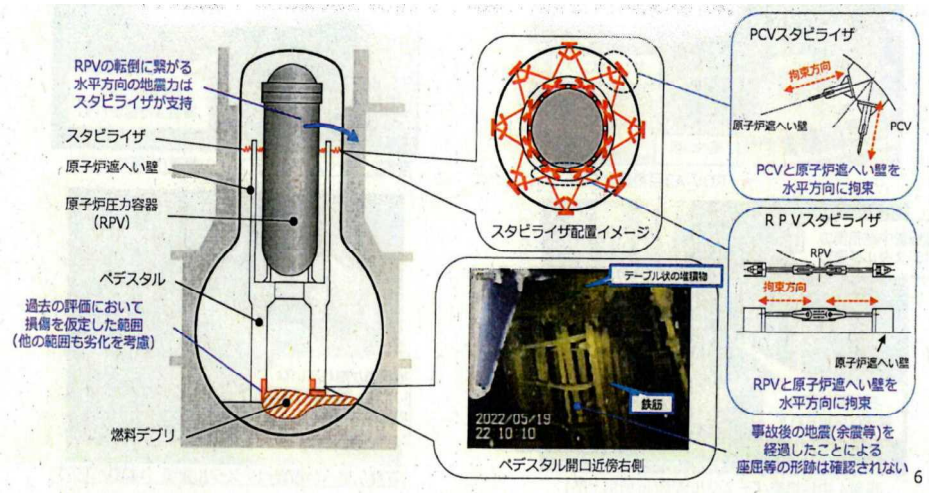
①ペデスタルの損傷状態について、早期の詳細調査を行い公表すること。

②原子炉倒壊の危険性について、専門家はペデスタルの支持機能が本来の８分の３程度まで低下していると試算した結果「この状態では震度６強の地震に耐えられず原子炉が倒れる可能性がある」と指摘しているが、これを踏まえて、原子炉倒壊の危険性を評価し、全ての情報を開示すること。

③緊急安全対策について、炉心倒壊の事態が発生すれば、福島県内はもとより広範な地域が、更なる放射線被ばくの危機にさらされることから、市民の安全を確保するため、緊急対策を早期に確立すること。

（東電）～（資料 12）を示して説明する。

・１号機の原子炉圧力容器（RPV）及び原子炉格納容器（PCV）の耐震性については国際廃炉研究開発機構（IRID）が事故後に評価を行っておりペデスタルが一部欠損していたとしても RPV を支持する機能が維持される旨の確認を行っている。



（資料 12）　中央のスタビライザの三角形で維持されていない 下の鉄骨だけで崩壊の危機

・この評価を踏まえれば地震により PCV 及び RPV の大規模な損壊に至ることは無いと推定しており、仮にペデスタルの支持機能が低下した場合であっても周辺の公衆に対する著しい放射線被ばくのリスクを与えることはないと考えている。

・PCV の内部調査を慎重に継続し、新たな知見の拡充。評価を実施し、結果については、まとまり次第公表したい。引き続き着実なかつ安全な廃炉作業を進めていく所存である。

耐震安全評価の４倍を超えている！

（諸団体）～原子炉圧力容器を支えるスタビライザが健全なように書かれている。ここに新潟県に東電が示した資料がある。この中で原子炉核格納容器が 120 ℃まで上昇した場合、熱膨張は 5.4 ㎜まで延びる耐震安全評価（5.9 ㎜）安全基準をクリアしていると評価している。第一原発１号機は過酷事故時 500 ℃を超えていたと事故調査委員会は述べている。その結果、スタビライザの熱伸びは 24..3 ㎜となり東電が自ら言っている耐震安全評価の４倍を超えている。計算上破壊していると言わざるを得ない。スタビライザが壊れているため機能を果たしていないと見るべきだ。

（東電）～スタビライザは機能していると見ている。

（諸団体）～それも想像だけではないのか？机上の計算では破損していると専門家は見ている。実際に写真撮った訳ではないのだから…これは重大な問題である。これが働いているのか…？

（東電）～幸か不幸かは別だが格納容器は非常に狭く、すぐ倒れると言うものではない。

（諸団体）～改めて言うと専門家は破損していると見ている。東電は「スタビライザは機能している！」と言っているが、これを確認した訳ではないのに、

誠意の一欠片もない対応だ！

それを仮定だけで「大丈夫！」と言っている。直接見たわけでもないのに…「露出した鉄筋のたわみ等のテベスタル支持機能を失っている兆候はない」これは酷すぎる！鉄筋コンクリートは「鉄筋とコンクリート」が有って始めて強度を持つものだ。「コンクリートが溶けて鉄筋が露出しているのに鉄筋が曲がったり、歪んでいないから大丈夫だ」という言い方だ！コンクリートが崩れて鉄筋だけだったら建物は全壊の評価だ…保険会社に聞いたらいい「全壊の評価」と言われる。こういう言い方自体が誠意の一欠片（ひとかけら）もないと言っているのだ！

（東電）～貴重な意見として聞いておきたい。

（諸団体）～その前に地震が来て事故が起きることを心配しているのだ！早急にやってもらわないと安心できない…「地震が来たら大丈夫かなー」と皆心配している。どのくらい震度だったらいいのか・教えて欲しい。2021 年 2022 年も大きな地震が来ている。2023 年も考えられる…「3.11 大震災」の余震だからだ！

（東電）～基準地震動 600ｶﾞﾙの評価をしている。3.11 では６号機は 460 ｶﾞﾙであった。私たちはダストの舞い上がりを警戒している。排気はフイルターを通して使っている。１号機の大型カバーを外側に設けている。

（諸団体）～ 1 号機がペデスタル問題もあり最も危険な状態なはずだ…そうだろう？

（東電）～無言…燃料は格納容器の下に落ちているし…心配ないと思う。大型カバーも建設中だ。

（諸団体）～東電と電力会社は今まで何度も何度も「原発は５つの壁で守られている！」と言ってきた。その建屋の天上が無くなりカバーでしのいでいるのが現状だ。ダストが舞い上がる確率が非常に高い。震度計測は１号機は抜けている？ 2021 年の地震の時には「地震計測器」が無かった問題が浮上した。それを６号機で誤魔化し…ダスト舞い上がりしたら今、大熊、双葉、浪江、富岡まで帰還した住民がいる。こんな状態で大丈夫！とよく言えたものだ！いつ仕上がるのか？

（東電）～来年と思うが…。

（諸団体）～東電という会社はウソのつきどおしだった… 50 年前からズーっと嘘ばかりついて 3.11 過酷事故を迎えた。皆さん方の体質にまだそれが残っている…会社に DNA として残っているのだ。これに付き合わせられる我々は大変だ。次回は我々素人に分かるように専門家を呼んできて欲しい？論争したいのだ！

次回は多核種除去設備問題で論争しよう！

（東電）～分かりました。

（諸団体）～２．「理解と合意なき汚染水海洋放出設備工事の６月着工の中止など求める要請書」への東電の回答（2022.5.12 付）と、それに他する再質問。

①海洋放出の説明会の開催について県民・市民を対象に処分に関する説明会開催すること。

（諸団体）～地域の漁師は「俺らは説明がない」と言っている。各市町村単位で開催することを提案する。

（東電）～これまで多くの機会をとらえ説明会をしたところである。廃炉事業の一環である処理水を多くの皆さんに理解を賜るため風評を最大限抑制するためにも、それを重ねることが大切である。

（諸団体）～呼ばれれば来るのではなく、自分から開催するべきだ。流される身になって考えて欲しい！賛成と言う人は本当に本当に少ない！

（東電）～貴重な意見として聞いている。

（諸団体）～宮城県は魚を輸出しているから反対の声が鋭く高い、反対の声は１㍉の変化もないという。前回も主張しているが「多核種除去設備」の HIC が満杯で「二次処理」出来ない状態にある。次回、この問題で論争したいと思っている。

（東電）～今日は時間がないので！

・次回は３月 16 日 13 時～ 15 時　平 26 区集会所

出典　文献

・（資料１・２）編集部
・（資料３）www.sabopc.or.jp/library/landslide・（資料４）NHK 日本誕生・（資料５）資料３と同じ・（資料６）福島民友 2013.8.21・（資料７・８）地学団体研究会・（資料 9・10・12）東京電力 HD・（資料 11）原子力施設周辺環境モニタリング調査・（注 1）判例時報 2020.3.11.21 判例判例 第一原発業務過失致死事件 海渡雄一氏・（注２）https://ja.wikipedia.org/wiki/阪神・淡路大震災元・（注３）日本地すべり学会会長 山木浩司山形大学名誉教授